

長期維持管理技術委員会 平成26年度第1回 議事要旨

日時：平成26年7月23日（水）15:00～17:30

場所：阪神高速道路（株）11F 会議室

出席：委員長：宮川 豊章（京都大学大学院工学研究科 教授）

委員：小林 潔司（京都大学経営管理大学院 教授）

森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

議事：

1. 長期維持管理及び更新に関する提言を受けて
 - ・長期維持管理技術委員会の設立
 - ・提言と更新計画（概要）
2. 大規模修繕・更新事業の計画と課題
3. 長期維持管理に必要な視点と問題点
4. その他

主な意見：

- ・ 損傷状況と構造物健全度との関係には相関性があり、今後は部材レベルの健全度にとどまらず、構造物の健全度も含め評価していくべきである。
- ・ 通常の高速度道路の管理水準であれば、損傷が構造物の健全度に影響を及ぼすまで進行することはほとんど考えられず、構造物の健全度評価においては、これまで橋梁マネジメントシステム（H-BMS）で用いてきた指標（管理（サービス）水準）との関係を明確にし、管理していくべき。
- ・ 大規模更新や修繕の実施後に発生する劣化を考慮したライフサイクルコスト(LCC)等を評価する必要がある。
- ・ 大規模修繕・更新事業についても、LCCが最少となるよう選定すればよい。また、H-BMSはその考えに基づき、今後の大規模修繕・更新の必要性を反映できる構造物の劣化予測が行えるシステムに発展させるべき。
- ・ システムには構造物を保全する管理者としての社会的責任といった視点も考慮すべき。
- ・ 定期的に事業進捗や最新の損傷状況等を基に、実施箇所（大規模修繕・更新の対象）等について検証と見直しを行うことが望ましい。

以上